

自分の進路や人権を見つける総合的な学習 —夜間中学校との交流—

大阪府大阪市立野田中学校

あき おか よし ゆき

秋岡祥介

【実践の概要】

本研究は、中学校1年生の進路の総合的な学習「夜間中学校との交流を事例として」において、子どもたちがどのように変容・進化していくかの教育実践である。

病気や身体障害・在日外国人・不登校・帰国子女などで学ぶことの権利を奪われた人たちが、「なぜ、年老いてから、また仕事と両立しながら夜間中学校に学びに来るのか」そこから生徒たちは、『学ぶ』ことの尊さや大切さを理解する。そして、今の学校の授業に目標をもって取り組み、自分の進路を真剣に考えるように変容していく。また、学べなかったことの悔しさを共感するとともに、そこに見られる過去・現在・未来にわたる人権問題に鋭い感性を磨くことができるようになる。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

21世紀になっても、実質的には全国の高等学校中退者は増加傾向にある。一般的にやめてきた生徒は、中学校3年間において自分の進路のことを真剣に考えたり、自分自身の現在や将来のことを大切に考えられなかった場合が多い。そこで進路学習を根本的に見直して、3年間を通した進路学習を総合的な学習の中で取り組んでいった。

2 研究の仮説

①夜間中学校で「なぜ、今勉強しているのか」について、映画やお話により『学ぶ』ことの大切さがわかり、自分自身を見つめ、進路を考える機会にできるであろう。

②夜間中学校との交流と事前学習で、在日外国人・帰国子女・不登校・障害者問題などの人権問題を学ぶことができるであろう。
③夜間中学校との交流で質問とまとめ・感想・お礼の手紙を書くことにより表現力を養い、『学ぶ』ことの尊さを理解し、共に生きる心を育成することができるであろう。

3 研究の具体的方策と実践

実践1「今、なぜ夜間中学なのか」

- ・資料に基づいて日本の夜間中学校の現状、なぜ夜間中学校ができてきたのか、夜間中学校の歴史などを学習させた。

実践2「映画を鑑賞し、アンケートに答え、自分の感想を発表しよう」

- ・映画を見て、夜間中学校で『学ぶ』大切さを考え、クラスでまとめ、発表させた。

実践3「夜間中学校の学習ノートを作ろう」

- ・全国や大都市の夜間中学校の数と大阪府の夜間中学校名などを資料から調べさせた。

実践4「日本と朝鮮半島の友好史を学ぼう」

- ・日本と朝鮮半島の関係は、古くから友好的であったことを具体的な資料に基づいて学習させた。

実践5「夜間中学校と交流しよう」

- ・全体会で夜間中学校の生徒さんに過去の学べなかった悔しさや現在の学べる喜びを語ってもらった。分科会では夜間中学校の生徒さんを各クラスに5名選び、ゲストティーチャーとして、生徒間交流を実施した。

実践6「感想文による発表・討論とお礼文」

4 研究のまとめと今後の課題

生徒たちは、過去に奪われた『学校で学ぶ』ということを実践に取り戻そうとしている夜間中学校の生徒さんに身近に接することで共感し、自分自身を見つめ直すことができた。また、「知る喜び」「わかる喜び」から「学べる喜び」を実感し、『学ぶ』ことの大切さを理解した。今後は、お互いの生徒が授業や行事を通じてさらなる交流を重ね、『学び』の場を継続し、発展させていきたい。